

会 議 録

1 会議名

平成 30 年度第 7 回諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

- ・ 地域活動支援事業（追加募集分）に係る採択結果の報告について

(2) 自主的審議議事項（公開）

- ・ 移住促進諏訪の会による視察結果について

3 開催日時

平成 30 年 10 月 31 日（水） 午後 7 時から午後 7 時 35 分まで

4 開催場所

諏訪地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：石黒太一、内山恵悟、内山松男、川上奈津子、川上久雄（副会長）
滝澤隆行、西嶋明子、星野一巳（会長）、山岸 愛、山岸一之
(欠席 2 人)

- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、野口係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【野口係長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【星野会長】

- ・会議録の確認：石黒委員に依頼

次第 2 議題「(1) 報告事項」の「地域活動支援事業（追加募集分）に係る採択結果について」に入る。前回の地域協議会では、ヒアリング・審査採択を行った。前回の採択結果について、事務局に説明を求める。

【野口係長】

- ・資料No.1 により説明

【星野会長】

今の説明に質疑を求める。

（発言なし）

今回の追加募集では 131 万 7,000 円の配分残額に対して、1 万 6,000 円の残額が出たが、これについては執行残として扱うことで決定している。

質問等無いようなので、次第 2 議題「(1) 報告事項」を終了する。

次に、次第 2 議題「(2) 自主的審議事項」の「移住促進諏訪の会による視察結果について」に入る。

その前に、移住促進諏訪の会の活動内容の進捗状況を説明する。最初に「空き家・空き地の物件調査」についてである。西部・東部・南部に担当を配置し、現在調査を行っている。調査については個人情報絡んでくることもあり具体的で詳細な把握までは進んでいないが、客観的な視点で注意を払いながら進めている状況である。市街化調整区域の特例については、各町内の具体的な状況を市の担当課に出向き確認をして来た。

次に、「地域の魅力調査」と「13 区内の移住地域事例研究」についても少しずつ情報を集めている状況である。

次に、「地域住民を対象とした学習会」は来春を予定している。

次に、「行政支援に関すること」については、これまでに視察を行った新潟市、須坂市、信濃町と上越市を比較し、どこにどのような魅力があるのか、どこが足りないか等を一覧にまとめた資料を作成しているところである。

また、「先進地視察」として、9 月 14 日の新潟市の越前浜自治会への視察と同様、11 月 12 日に須坂市・信濃町の NPO 法人ざいごうへの視察を予定している。

次に、「情報発信・地域の紹介」については、7月に「諏訪の移住促進だより」の第1号を発行しており、移住に関する問い合わせは古川会長が窓口になっている。

このように、様々な情報やまとめについては個々にそれぞれの担当者を決め、少しずつ進めている状況である。

移住促進諏訪の会の活動内容の進捗状況に係る報告は以上である。

次に、9月14日に移住促進諏訪の会が地域活動支援事業を利用して越前浜自治会への視察を行ったため、メンバーの一員として参加した私からその概要と感想をお伝えしたい。詳細は地域協議会の後で行う移住促進諏訪の会でお話することとし、ここでは簡単に報告をする。

視察はメンバーのうち4人で越前浜自治会会長に会い、前回訪問した時以上に取組などの詳細を聞いてきた。自治会長がとても熱心に取り組んでおり、人柄や熱意が伝わってきた。内容としては困難をどのように乗り越えたのか、地域・周囲の支援や理解についての話をポイントに話を聞いた。また、地域環境として、出産・子育てをするための環境がどのようになっているのか、行政の対応や助成、PRやホームページの活用法についても聞いた。データ重視の観点から物事を見る考えで活動しておられ、他とどのようにポイントを変えて活動しているのかを確認しながら視察を行った。

8月2日の新潟日報に、越前浜自治会が土地の分譲を開始したとの記事が掲載されていた。10年前より土地を活用して地域を活性化させたいとの考えで、現在の自治会長が先頭に立って進めてきた活動である。「地域活性化には何が必要か」を考え、対象を高齢者と若者に絞った。高齢化と高齢化による体が不自由になることの受け皿が必要と考え、介護施設を2か所誘致した。また、次世代を担う子ども達を増やすためにはどうしたら良いかを考えた結果、福祉と子どもの2つの観点から地域を活性化させる秘策を考えたとのことであった。

活動により現在、越前浜小学校の児童は50人おり、内、越前浜自治会に所属するの児童は32人、内もともとの住民は14人、残りの18人は移住してきた児童ということであった。現在は、移住してきた児童の人数の方が多く、活動していなければ児童は増えなかったということであり活動の成果が出ていると言える。また、園児も増加しており、今後小学校に入学する子ども達が50数人いるということであった。

次に、越前浜の人口についてだが、10年前は830人、現在は730人であり差引で100人減少している。減少の内訳は、移住者130人の増加と230人の自然減で差し引き100人減である。移住者がいなければ更に減少していたことになり、ここでも活動の効果が出たと言える。

活動については、周囲の応援もあり、会長が先頭に立って進めることに対して支えてくれたとのことであった。活動報酬についてはボランティアに近く、ごく僅かということであった。

次に、土地についてである。越前浜地区には昔から保安林や開墾地等、先祖代々からの共有地があり、これを活用することで地域を盛り上げることが出来た。共有地を売却することで財政的に豊かになり、活動資金に充てることに成功した。「この土地が無ければここまでの活動は出来なかった」と話していた。

次に、移住の実績については、借家の世帯が31軒で、家賃は2万円から4万円である。中古物件を買い取った世帯が29軒、新築による移住世帯が14軒の合計74軒のとのことであった。10年間で74軒にのぼり、年平均約7軒の活動成果があることになる。しかし、移住に関する問合せや商談は3倍程度の年間20件程度あるとのことであった。

次に、越前浜の立地条件だが、新潟市の中心部へは車で30分程度であり、ベットタウンとも言える地域だ。また、海岸に近いこともあり海風により積雪量が比較的少なく、新潟市街地よりも少ないという。角田浜や弥彦山のおかげか、非常に温暖であり、砂丘地でもあるためブドウ等の果樹を栽培しやすい地域であるし、漁港も近く、釣りが出来る。弥彦山や角田山があるため山登りにも最適で自然にも恵まれている。栽培したブドウを使用したワイン工場や温泉施設も町内にあり、とても立地条件が良いと感じた。

次に、移住者に移住した目的を尋ねると、

- ・新潟市のベットタウンである
- ・移住すると市から10万円の助成金が支給される
- ・老後の居住地、芸術アトリエの地、福祉施設が近い、小学校が近い

などの理由から、子ども連れ世帯や若い新婚家庭の移住があり、良い方向に進んでいると話していた。

次に、移住者の前の居住地を確認したところ、新潟市内がほとんどであり、県外からの移住は3軒のみとのことであった。そのため、他の市や県からの呼び込みは改めて難しいと感じた。新しく分譲した場所については、十日町や五泉市からの移住が見られ、雪が少ないためとの理由であった。

次に、ホームページについてである。当初作成した際は、業者に依頼して150万円程度費用が掛かったという。現在は5人のメンバーで運営し、毎月検討会を行っている。良いことは行わなければ何も起こらず、また何が引き金になるかも分からないため、様々なところから情報を収集して情報を発信していた。

次に、移住者に対する市の支援についてである。越前浜地域は「移住モデル地区」に指定されている。県外からの移住は支援金10万円、また分譲地については県外からの移住に30万円の支給があると話していた。

次に、困っていることについてである。これまでに移住した世帯の子どもが高校生になった時、近くに高校がないとの理由から隣の旧巻町に再移住してしまったことが2件ほどあったということだ。通学が非常に不便でありバスの本数も減少してきているため、通学が困難との理由から世帯ごと引っ越してしまったという。

最後に、視察に行ったメンバーの感想として、

- ・共有地を上手く活用できており財政力がある
- ・新潟市のベッドタウンであり市内まで30分で行ける立地条件
- ・農業も出来る、近くにブドウのハウス栽培やワイン工場がある
- ・行政からの助成金がある
- ・核となる人物がいて、取り巻く人たちの努力が見られる

などが挙げられた。

以上で報告を終了する。

今ほどの説明に対して質問はあるか。

(発言なし)

次に、次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認」について、事務局に説明を求める。

【野口係長】

- ・会長会議：11月14日（水）午後3時30分から開催 ※星野会長出席

雄志中学校生徒との意見交換会について報告がある。今年度については、雄志中学校区の津有区・諏訪区・高士区の3区全てで地域活動支援事業の追加募集を行っており、10月は追加募集の審査等により時間を取ることが難しかった。また、雄志中学校区の3区ではすでに自主的審議のテーマが決まっており、課題集約は完了している。さらに、雄志中学校の生徒は主に3年生が参加していたが、秋以降は受験等で多忙となるため時間が取れないと聞いている。それらを踏まえて今年度の意見交換会の開催は3区の地域協議会長の意見を参考に見送ることとした。

次に、3区合同の意見交換会については、各区の要望があれば事務局で日程の調整が可能なため、各区の意向を確認し、それに応じて検討していく。

【星野会長】

- 日程調整 -

- ・ 次回の協議会：12月5日（水）午後7時から 諏訪地区公民館 集会室
- ・ 内容：
 - ・ 会長会議の結果報告（概要）
 - ・ 諏訪小学校について教育委員会からの報告

事務局に確認だが、教育委員会からの報告事項についてはどの程度の時間を予定しているのか。

【野口係長】

まだ、詳細は不明だ。

【星野会長】

地域協議会終了後に移住促進諏訪の会を行うことは可能か。

【野口係長】

会長会議の報告もあるため、会議は1時間程度が見込まれる。

【星野会長】

他に何かあるか。

【山岸一之委員】

教育委員会からの報告内容は、地域協議会委員を対象にした報告なのか。

【野口係長】

そうである。

【星野会長】

他に何かあるか。

(発言なし)

以上で、次第3「その他」を終了する。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部自治・地域振興課中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690 (直通)

E-mailchubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。